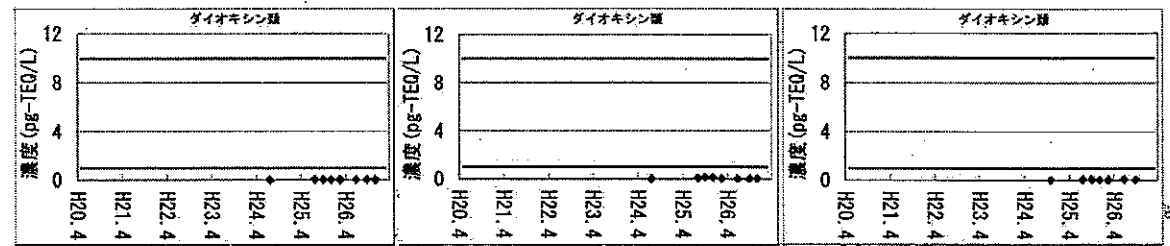
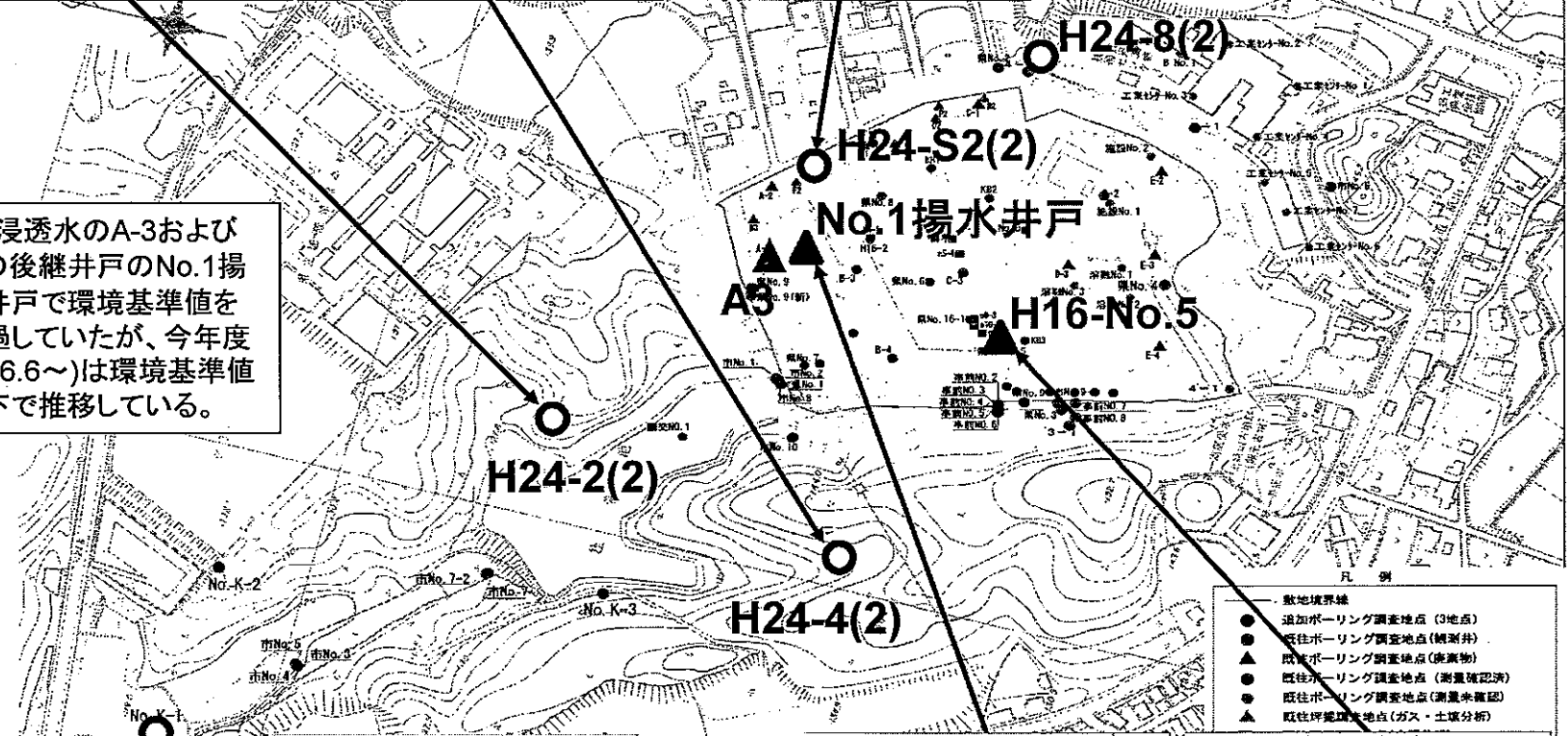


ダイオキシン類

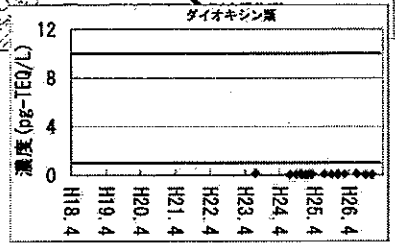
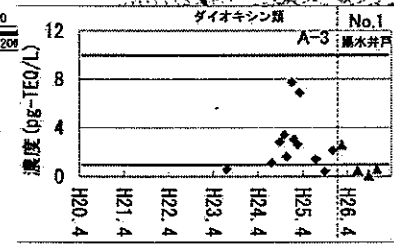
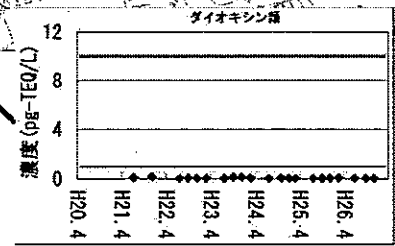
○ Ks3
▲ 浸透水



● 浸透水のA-3およびその後継井戸のNo.1揚水井戸で環境基準を超過していたが、今年度(H26.6~)は環境基準以下で推移している。

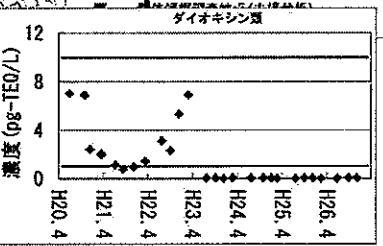
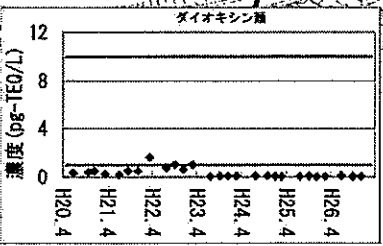
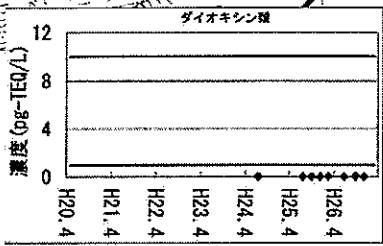
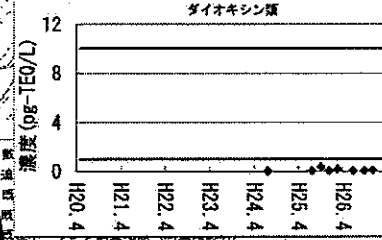
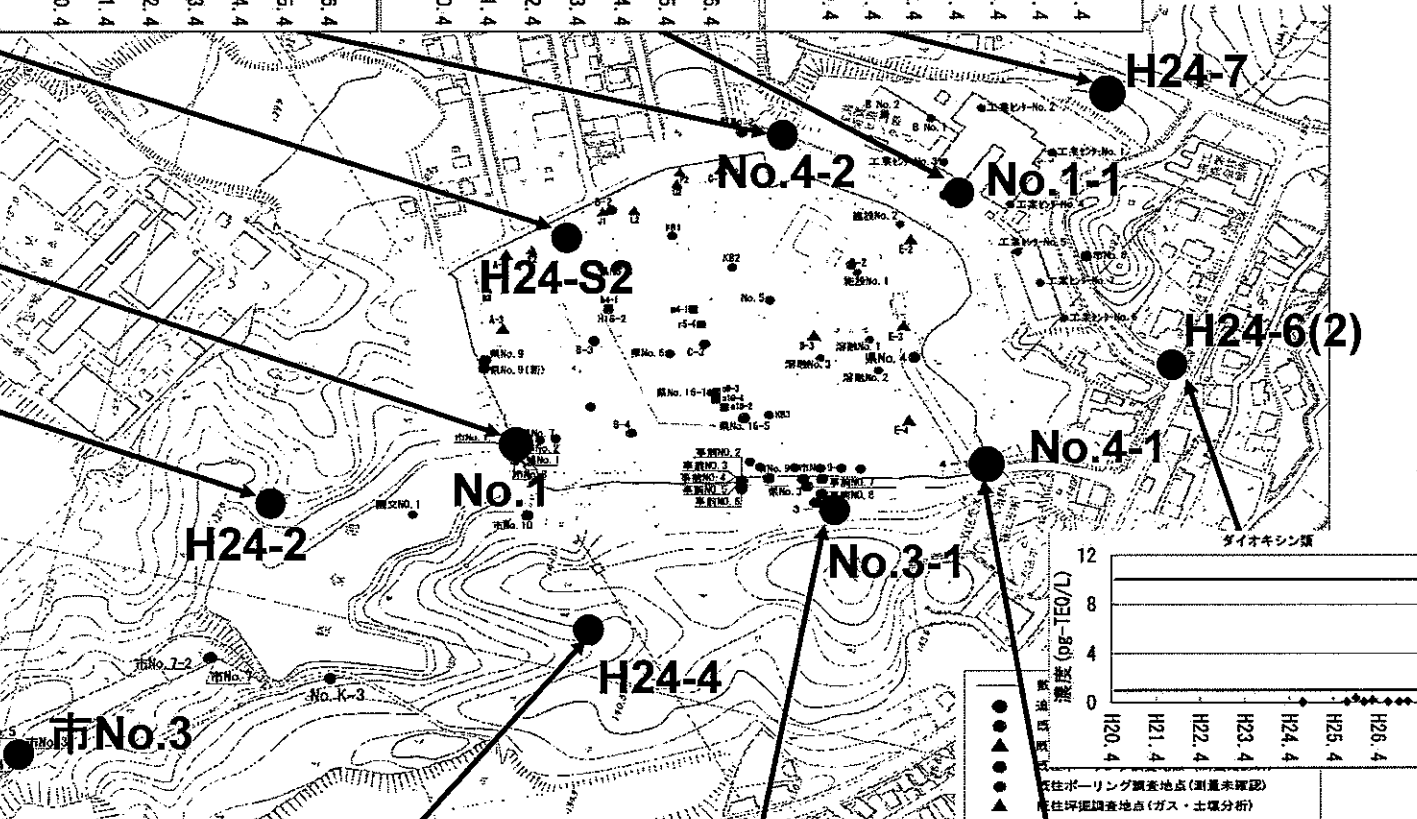
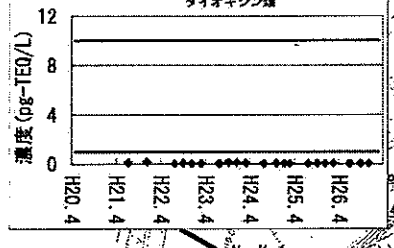
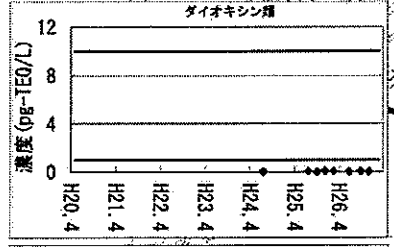
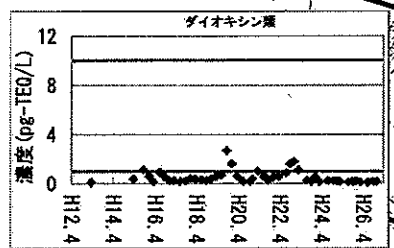
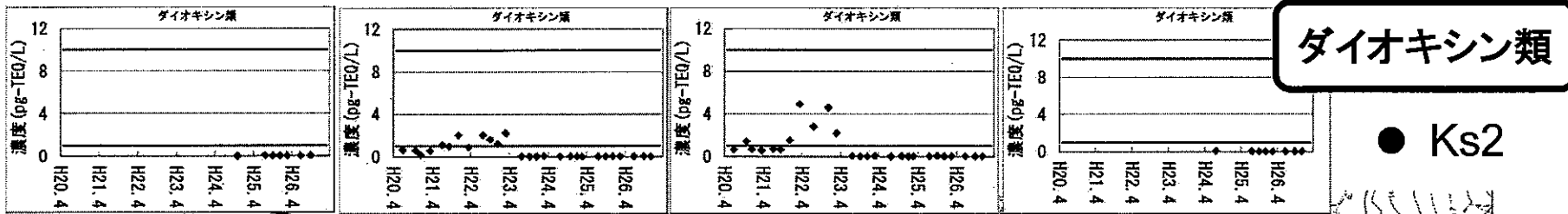


環境基準
1pg-TEQ/L



ダイオキシン類

● Ks2



環境基準
1pg-TEQ/L

分析結果 (場内浸透水)

場内浸透水										
調査地点	H16-No.5				No.1揚水井戸					
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値
現場測定項目	浸透水	浸透水	浸透水	浸透水		浸透水	浸透水	浸透水	浸透水	
気温 (°C)	30.0	26.5	10.0			31.0	26.0	10.5		
水温 (°C)	24.5	23.9	22.3			20.9	21.4	20.7		
採水水深 (m) (GLより)	22.07	22.13	22.25			17.66	18.92	19.03		
分析項目	分析結果					分析結果				
	全量分析	全量分析	全量分析		全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		全量分析
pH	7.1	7.1	7.1		7.1	7.2	7.2	7.2		7.2
BOD (mg/L)	13	23	15		17	1.0	8.8	2.9		4.2
COD (mg/L)	26	24	21		24	15	14	12		14
SS (mg/L)	6.3	3.3	5.0		4.9	18	6.4	16		13
EC (mS/m)	190	210	200		200	170	150	160		160
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.15	0.053	0.10		0.10
ふっ素 (mg/L)	0.74	0.64	0.79		0.72	0.36	0.33	0.32		0.34
ほう素 (mg/L)	1.6	1.4	1.4		1.5	1.3	1.1	1.3		1.2
鉛 (mg/L)	0.006	0.009	< 0.005		0.007	0.011	0.009	0.007		0.009
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001
塩化ビニルモノマー (mg/L)	0.0007	0.0006	0.0009		0.0007	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002
1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	0.044	0.033	0.023		0.033	0.007	0.012	0.010		0.010
鉄 (mg/L)	1.4	0.48	0.57		0.8	2.4	1.0	1.8		1.7
マンガン (mg/L)	0.12	0.15	0.17		0.15	1.3	0.56	0.50		0.79
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.096	0.042	0.038		0.059	0.53	0.091	0.61		0.41

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD (トリクロロベンゼンダイオキシン) に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質 (水温、pH、電気伝導度等) が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果（周辺地下水[Ks3層、その1]）

K s 3 層 地 下 水											
調査地点	H24-8(2)				H24-S2(2)						
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8	年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8	年間平均値	年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		
気温(°C)	26.0	18.8	12.0		32.0	26.5	—				
水温(°C)	19.0	17.7	13.9		19.1	19.1	—				
採水水深(m)(GLより)	4.76	4.70	4.70		11.46	11.26	—				
	分析結果				分析結果						*実定長期平均値の地下水環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	採水不能	全量分析	地下水環境基準	
pH	6.6	6.1	6.5	6.4	6.9	7.0	—	7.0	—		
BOD (mg/L)	—	—	—	—	3.8	4.1	—	4.0	20mg/L		
COD (mg/L)	—	—	—	—	25	22	—	24	40mg/L		
SS (mg/L)	—	—	—	—	9.1	13	—	11	—		
EC (mS/m)	21	16	20	19	160	170	—	170	—		
カドミウム (mg/L)	—	—	—	—	< 0.001	< 0.001	—	0.001	0.01mg/L	0.003mg/L	
ひ素 (mg/L)	—	—	—	—	0.033	0.055	—	0.044	0.01mg/L	0.01mg/L	
ぶつ素 (mg/L)	—	—	—	—	0.27	0.24	—	0.26	—	0.8mg/L	
ほう素 (mg/L)	—	—	—	—	1.2	1.3	—	1.3	—	1mg/L	
鉛 (mg/L)	—	—	—	—	0.007	0.009	—	0.008	0.01mg/L	0.01mg/L	
総水銀 (mg/L)	—	—	—	—	< 0.0005	< 0.0005	—	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L	
PCB (mg/L)	—	—	—	—	< 0.0005	< 0.0005	—	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)	
トリクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.002	< 0.002	—	0.002	0.03mg/L	0.01mg/L	
テトラクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.0005	< 0.0005	—	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L	
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.002	< 0.002	—	0.002	0.02mg/L	0.1mg/L	
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.004	< 0.004	—	0.004	—	0.04mg/L	
シス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.002	< 0.002	—	0.002	0.04mg/L		
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.002	< 0.002	—	0.002	—		
ベンゼン (mg/L)	—	—	—	—	< 0.001	< 0.001	—	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L	
塩化ビニルモノマー (mg/L)	—	—	—	—	< 0.0002	< 0.0002	—	0.0002	—	0.002mg/L	
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	—	—	—	—	0.021	0.021	—	0.021	—	0.05mg/L	
鉄 (mg/L)	—	—	—	—	1.8	3.4	—	2.6	—	—	
マンガン (mg/L)	—	—	—	—	3.0	3.2	—	3.1	—	—	
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	—	—	—	—	0.066	0.025	—	0.046	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L	

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンジ「ダイキシン」)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによる過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果 (周辺地下水[Ks3層、その2])

K s 3 層 地 下 水										
調査地点	H24-2(2)				H24-4(2)					
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8	年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8	年間平均値		
現場測定項目	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3	Ks3		
気温 (°C)	24.0	22.5	7.5		25.0	24.0	4.0			
水温 (°C)	16.3	16.9	16.1		13.5	19.5	18.1			
採水水深 (m) (Gより)	14.95	14.95	14.95		5.95	5.58	5.81			
分析結果					分析結果					
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	地下水環境基準
pH	5.9	5.8	6.0	5.9	5.2	5.1	5.6	5.3		—
BOD (mg/L)	1.6	4.8	3.1	3.2	0.5	1.3	0.8	0.9		20mg/L
COD (mg/L)	11	9.8	10	10	0.5	0.9	0.7	0.7		40mg/L
SS (mg/L)	< 1.0	< 1.0	< 1.0	1.0	5.4	< 1.0	1.2	2.5		—
EC (mS/m)	130	140	130	130	4.8	9.0	11	8.3		—
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001		0.01mg/L
ヒ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005		0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.09	< 0.08	< 0.08	0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08		0.8mg/L
ぼう素 (mg/L)	0.4	0.2	0.3	0.3	< 0.1	< 0.1	< 0.1	0.1		1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	0.008	< 0.005	0.006	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005		0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005		0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.03mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005		0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.02mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004		0.04mg/L
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.04mg/L
1,1,2-トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001		0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	0.0014	0.0013	0.0017	0.0015	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002		0.002mg/L
1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	0.053	0.064	0.056	0.058	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005		0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.21	0.36	0.19	0.25	0.17	0.05	0.05	0.09		—
マンガン (mg/L)	0.69	0.80	0.72	0.74	0.02	< 0.01	0.03	0.02		—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.021	0.021	0.021	0.021	0.027	0.021	0.023	0.024		1pg-TEQ/L

※ p g : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ T E Q : 毒性等量であること。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なる。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンジダイキシン)に換算した数値。

※ 採水方法: 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法: 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値: 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果 (周辺地下水 [Ks2層、その1])

K s 2 層 地 下 水											
調査地点	H24-7				H24-6(2)						
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8	年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8	年間平均値	年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	28.0	24.0	8.0		29.0	25.5	12.0				
水温 (°C)	18.8	17.7	17.3		18.9	19.0	18.8				
採水水深 (m) (GLより)	9.80	9.53	9.65		9.49	9.26	9.37				
分析結果					分析結果					※ 安定状態継続分析の 地下水の基準	地下水環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	6.4	6.4	6.4	6.4	5.3	5.7	5.3	5.4		--	
BOD (mg/L)	< 0.5	1.4	0.9	0.9	< 0.5	0.8	< 0.5	0.6		20mg/L	
COD (mg/L)	3.7	4.6	4.0	4.1	< 0.5	0.6	0.7	0.6		40mg/L	
SS (mg/L)	< 1.0	< 1.0	< 1.0	1.0	9.4	21	14	15		--	
EC (mS/m)	13	15	12	13	12	13	11	12		--	
ガドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001		0.01mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	0.011	0.013	0.018	0.014	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005		0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08	0.08		--	0.8mg/L
ぼう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1	0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1	0.1		--	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005		0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005		0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		検出されないこと (0.0005mg/L)	検出されないこと (0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	0.0005		0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.02mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004	0.004		--	0.04mg/L
トリス(1,2-ジクロロエチレン) (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.04mg/L	
トリス(1,2-ジクロロエチレン) (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		--	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	0.001		0.01mg/L	0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002	0.0002		--	0.002mg/L
1,4-ジクロロベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005	0.005		--	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	4.4	4.7	4.1	4.4	0.29	0.41	0.42	0.37		--	--
マンガン (mg/L)	0.42	0.39	0.39	0.40	0.05	0.05	0.05	0.05		--	--
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.021	0.026	0.021	0.023	0.043	0.052	0.066	0.054		1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(トリクロロジベン)ダイオキシンに換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱れることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによる過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果 (周辺地下水 [Ks2層、その2])

Ks2層地下水												
調査地点	H24-S2				No.1							
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	27.5	24.0	—	—	—	31.0	26.0	12.0	—	—		
水温 (°C)	19.5	18.7	—	—	—	21.3	21.7	21.0	—	—		
採水水深 (m) (GLより)	17.95	17.95	—	—	—	10.50	10.50	10.50	—	—		
分析結果					分析結果							
分析項目	全量分析	全量分析	採水不能		全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	6.5	6.6	—	—	6.6	6.5	6.5	6.6	—	6.5	—	—
BOD (mg/L)	1.0	2.1	—	—	1.6	< 0.5	1.6	1.7	—	1.3	20mg/L	—
COD (mg/L)	6.9	7.7	—	—	7.3	16	15	14	—	15	40mg/L	—
SS (mg/L)	25	22	—	—	24	36	52	50	—	46	—	—
EC (mS/m)	71	75	—	—	73	150	140	140	—	140	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	—	—	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	—	0.001	0.01mg/L	0.003mg/L
ヒ素 (mg/L)	0.016	0.016	—	—	0.016	< 0.005	< 0.005	< 0.005	—	0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
フッ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	—	—	0.08	< 0.08	0.09	0.12	—	0.10	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	0.1	0.1	—	—	0.1	1.2	1.1	1.3	—	1.2	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	0.007	—	—	0.006	0.010	0.007	< 0.005	—	0.007	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	—	—	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	—	0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	—	—	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	—	< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	—	—	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	0.002	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	—	—	0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	—	0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	—	—	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	0.002	0.02mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	—	—	0.004	0.006	0.004	0.005	—	0.005	—	0.04mg/L
1,1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	—	—	0.002	0.004	0.002	0.003	—	0.003	0.04mg/L	—
1,1,2,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	—	—	0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002	—	0.002	—	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	—	—	0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001	—	0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	—	—	0.0002	0.0013	0.0006	0.0015	—	0.001	—	0.002mg/L
1,4-ジオキサン (mg/L)	0.032	0.026	—	—	0.029	0.054	0.031	0.027	—	0.037	—	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	10	11	—	—	11	25	28	27	—	27	—	—
マンガン (mg/L)	1.5	1.4	—	—	1.5	2.6	2.3	2.0	—	2.3	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.038	0.027	—	—	0.033	0.090	0.17	0.16	—	0.14	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

* pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

* TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾダイオキシン)に換算した数値。

* 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

* 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベレーラで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによるろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

* 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定置下限値未満の場合は定置下限値として扱い、年平均値を求めている。 pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

* トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果(周辺地下水[Ks2層、その3])

K s 2 層 地 下 水												
調査地点	No.3-1				H24-2							
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温(°C)	23.0	23.0	6.5			25.5	22.5	8.0				
水温(°C)	21.7	21.5	20.3			17.3	17.6	16.9				
採水水深(m)(GLより)	13.38	13.19	13.28			25.30	25.30	25.30				
分析結果					分析結果					*安定型異性体分離の 深遠水の基準	地下水環境基準	
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析		全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			
pH	7.2	7.2	7.2		7.2	6.2	6.1	6.2		6.2	-	-
BOD (mg/L)	1.7	12	8.1		7.3	< 0.5	1.4	0.8		0.9	20mg/L	-
COD (mg/L)	13	16	13		14	7.3	7.6	7.1		7.3	40mg/L	-
SS (mg/L)	11	11	11		11	1.3	27	1.8		10	-	-
EC (mS/m)	170	190	180		180	110	110	110		110	-	-
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	0.01mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	0.016	0.017	0.022		0.018	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.52	0.45	0.49		0.49	< 0.08	0.08	< 0.08		0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	1.2	1.1	1.4		1.2	0.6	0.7	0.8		0.7	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	0.005	0.008	< 0.005		0.006	< 0.005	0.007	< 0.005		0.006	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.02mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	0.010	0.009	0.012		0.010	-	0.04mg/L
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.008	0.007	0.010		0.008	0.04mg/L	-
トランス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	-	-
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002	0.0042	0.0029	0.0053		0.0041	-	0.002mg/L
1,4-ジオキサ (mg/L)	0.023	0.040	0.021		0.028	0.038	0.032	0.030		0.033	-	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	3.0	3.5	3.1		3.2	1.4	2.2	1.1		1.6	-	-
マンガン (mg/L)	0.55	0.68	0.65		0.63	0.23	0.28	0.22		0.24	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.094	0.045	0.051		0.063	0.021	0.043	0.021		0.028	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

* pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ T E Q : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(トリクロロジベンゾダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45µmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果 (周辺地下水[Ks2層、その4]、[Ks2+Ks3層最下流地下水])

調査地点	Ks2層地下水				Ks2+Ks3層最下流地下水					年間平均値		
	H24-4				No. K-1							
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3	Ks2+Ks3			
気温 (°C)	23.0	24.0	7.0			28.2	23.0	8.0				
水温 (°C)	20.2	20.6	19.7			15.4	16.1	14.9				
採水水深 (m) (GLより)	19.50	19.50	19.50			-	-	-				
分析項目	分析結果				分析結果					年間平均値	地下水環境基準	
	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析			
pH	7.0	7.1	7.2		7.1	5.4	5.5	5.6		5.5	-	
BOD (mg/L)	1.2	5.8	2.5		3.2	< 0.5	1.5	1.0		1.0	20mg/L	
COD (mg/L)	16	14	11		14	8.9	9.0	8.7		8.9	40mg/L	
SS (mg/L)	5.2	2.9	5.8		4.6	5.8	8.1	4.7		6.2	-	
EC (mS/m)	190	180	170		180	84	87	90		87	-	
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	0.01mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.11	0.12	0.13		0.12	< 0.08	< 0.08	< 0.08		0.08	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	1.4	1.3	1.4		1.4	0.3	0.3	0.3		0.3	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	0.006	0.009	< 0.005		0.007	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.02mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	< 0.004	< 0.004	0.004		0.004	-	0.04mg/L
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	0.002		0.002	0.04mg/L	
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	-	
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002	0.0022	0.0013	0.0032		0.0022	-	0.002mg/L
1,4-ジオキサ (mg/L)	0.036	0.026	0.029		0.030	0.034	0.027	0.024		0.028	-	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.93	1.0	0.60		0.84	16	15	13		15	-	-
マンガン (mg/L)	6.3	5.1	4.1		5.2	0.75	0.67	0.58		0.67	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.023	0.036	0.022		0.027	0.025	0.024	0.023		0.024	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(テトラクロロベンゾ[d]呋ラン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果 (地下水確認調査 [Ks2層、その1])

地下水確認調査												
調査地点	No. 4-1					No. 1-1						
採取日	H26. 6. 30	H26. 10. 2	H26. 12. 8		年間平均値	H26. 6. 30	H26. 10. 2	H26. 12. 8		年間平均値		
現場測定項目	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1		Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1	Ks2+Ks1			
気温 (°C)	27.0	25.0	9.0			28.0	24.0	8.0				
水温 (°C)	17.7	16.7	15.6			18.1	17.5	16.8				
採水水深 (m) (GLより)	19.24	19.01	19.12			14.24	14.00	14.08				
分析結果						分析結果						
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析		全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		全量分析	※安定設置地分層の 採水の基準	地下水環境基準
pH	5.8	5.8	5.8		5.8	5.9	6.0	6.0		6.0	—	—
BOD (mg/L)	< 0.5	0.6	1.1		0.7	< 0.5	0.7	1.0		0.7	20mg/L	—
COD (mg/L)	< 0.5	0.6	< 0.5		0.5	< 0.5	< 0.5	< 0.5		0.5	40mg/L	—
SS (mg/L)	4.1	3.0	8.9		5.3	< 1.0	< 1.0	< 1.0		1.0	—	—
EC (mS/m)	15	15	16		15	8.1	12	12		11	—	—
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	0.01mg/L	0.003mg/L
ヒ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08		0.08	< 0.08	< 0.08	< 0.08		0.08	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1		0.1	< 0.1	< 0.1	< 0.1		0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	検出されないこと (0.0005mg/L)	検出されないこと (0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.02mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	—	0.04mg/L
トリス(1,2-ジクロロエチレン) (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	0.04mg/L	—
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	0.01mg/L	0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002	—	0.002mg/L
1,4-ジオキサン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	—	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.27	0.17	0.14		0.19	0.03	0.04	0.05		0.04	—	—
マンガン (mg/L)	0.01	< 0.01	0.01		0.01	0.09	< 0.01	0.06		0.05	—	—
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.024	0.032	0.033		0.030	0.021	0.021	0.021		0.021	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(トリクロロベンゼン)ダイオキシン)に換算した数値。

※ 採水方法 : 井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではベローで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブランフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値 : 環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定置下限値未満の場合は定置下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果 (地下水確認調査[Ks2層、その2])

地下水確認調査												
調査地点	No.4-2				市No.3							
採取日	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値	H26.6.30	H26.10.2	H26.12.8		年間平均値		
現場測定項目	Ks2	Ks2	Ks2	Ks2		Ks2	Ks2	Ks2	Ks2			
気温 (°C)	26.0	21.0	12.0			24.0	23.0	8.0				
水温 (°C)	16.3	16.2	15.2			14.4	17.3	14.1				
採水水深 (m) (GLより)	14.20	14.03	14.25			-	-	-				
分析結果					分析結果							
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析	全量分析		
pH	6.1	6.1	6.1		6.1	6.3	6.4	6.6		6.4		
BOD (mg/L)	< 0.5	0.5	0.5		0.5	-	-	-		-	20mg/L	
COD (mg/L)	0.5	1.0	0.6		0.7	-	-	-		-	40mg/L	
SS (mg/L)	< 1.0	1.2	< 1.0		1.1	< 1.0	< 1.0	1.0		1.0		
EC (mS/m)	15	14	14		14	96	92	86		91		
カドミウム (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	-	-	-		-	0.01mg/L	0.003mg/L
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	< 0.08	< 0.08	< 0.08		0.08	-	-	-		-	-	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1		0.1	-	-	-		-	-	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
総水銀 (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	0.0005mg/L	0.0005mg/L
PCB (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		< 0.0005	-	-	-		-	検出されないこと (<0.0005mg/L)	検出されないこと (<0.0005mg/L)
トリクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	-	-	-		-	0.03mg/L	0.01mg/L
テトラクロロエチレン (mg/L)	< 0.0005	< 0.0005	< 0.0005		0.0005	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
1,1-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	-	-	-		-	0.02mg/L	0.1mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	-	-	-		-	-	0.04mg/L
trans-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	-	-	-		-	0.04mg/L	
cis-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	-	-	-		-		
ベンゼン (mg/L)	< 0.001	< 0.001	< 0.001		0.001	-	-	-		-	0.01mg/L	0.01mg/L
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002	-	-	-		-	-	0.002mg/L
1,4-ジオキサ (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	-	-	-		-	-	0.05mg/L
鉄 (mg/L)	0.13	0.39	0.06		0.19	-	-	-		-	-	-
マンガン (mg/L)	0.01	0.08	0.03		0.04	-	-	-		-	-	-
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.022	0.022	0.021		0.022	-	-	-		-	1pg-TEQ/L	1pg-TEQ/L

※ pg:mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ T.E.Q.:毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD(トリクロロジベンゾ[1,2,3-c,d]ピレン)に換算した数値。

※ 採水方法:井戸孔内に長期間滞留した水を置換することを目的として、水中ポンプで井戸の孔内水量の4倍量程度汲み上げた後、水質(水温、pH、電気伝導度等)が安定したことを確認してからポンプにて必要量を採取した。

※ 分析方法:試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。なお、平成22年度まではペーラーで採水を実施していたが、採水時に孔内水が乱されることで井戸の底等に堆積した土壌粒子等が巻き上げられ、採水試料に混入することが避けられなかったため、0.45μmメンブレンフィルターによりろ過を行い、そのろ液の分析結果を併せて掲載していたが、平成23年度より水中ポンプで採水を実施することで、土壌粒子等の混入を改善することができるようになったことから全量分析結果のみを掲載している。

※ 年間平均値:環境基準値に対する評価方法に基づき、検出値が定量下限値未満の場合は定量下限値として扱い、年平均値を求めている。pH、BOD、COD、SS、EC、鉄、マンガンは参考値。なお、PCBの年間平均値欄の値は、すべて「検出されないこと」をもって基準達成となるため、該当する値を表記し、評価した。

※ トリクロロエチレンは、平成26年11月16日まで地下水環境基準は0.03mg/L、平成26年11月17日からは0.01mg/L

分析結果（経堂池[中央部中層]）

経堂池水質調査							
調査地点	中央部				年間平均値		
採取日	H26.7.17	H26.10.17	H26.12.5				
現場測定項目	中層	中層	中層	中層			
気温 (°C)	33.0	19.0	8.5				
水温 (°C)	28.7	18.0	8.8				
採水水深 (m) (水面より)	中層:1.1 m	中層:1.0 m	中層:0.9 m				
分析結果						農業用水基準	水質環境基準
分析項目	全量分析	全量分析	全量分析		全量分析		
pH	7.6	7.4	7.6		7.5	6.0~7.5	—
BOD (mg/L)	3.5	2.4	2.2		2.7	—	—
COD (mg/L)	11	6.0	6.8		7.9	6mg/L	—
SS (mg/L)	4.9	31	24		20	100mg/L	—
EC (mS/m)	32	23	27		27	30mS/m	—
ひ素 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	0.01mg/L	0.01mg/L
ふっ素 (mg/L)	0.11	< 0.08	< 0.08		0.09	—	0.8mg/L
ほう素 (mg/L)	< 0.1	< 0.1	< 0.1		0.1	—	1mg/L
鉛 (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	—	0.01mg/L
1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.004	< 0.004	< 0.004		0.004	—	0.04mg/L
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	—	—
トリス-1,2-ジクロロエチレン (mg/L)	< 0.002	< 0.002	< 0.002		0.002	—	—
塩化ビニルモノマー (mg/L)	< 0.0002	< 0.0002	< 0.0002		0.0002	—	0.002mg/L
1,4-ジメチルベンゼン (mg/L)	< 0.005	< 0.005	< 0.005		0.005	—	0.05mg/L
ダイオキシン類 (pg-TEQ/L)	0.030	0.26	0.20		0.16	—	1pg-TEQ/L
全窒素 (mg/L)	0.65	0.70	0.57		0.64	1mg/L	—
アンモニア性窒素 (mg/L)	< 0.05	0.06	< 0.05		0.05	—	—
硝酸性窒素および亜硝酸性窒素 (mg/L)	< 0.01	0.07	0.08		0.05	—	10mg/L
全りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05		0.05	—	—
りん酸態りん (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05		0.05	—	—
銅 (mg/L)	< 0.01	< 0.01	< 0.01		0.01	0.02mg/L	—
亜鉛 (mg/L)	< 0.05	< 0.05	< 0.05		0.05	0.5mg/L	—
蒸発残留物 (mg/L)	210	180	150		180	—	—
塩化物イオン (mg/L)	9.9	4.0	5.8		6.6	—	—

※ pg : mgの十億分の1 (1pg=1,000,000,000分の1mg)

※ TEQ : 毒性等量であることをいう。ダイオキシン類には多くの異性体が存在しており、その毒性は異なっている。このため、異性体が混合しているダイオキシン類の毒性の強さを評価する上で、最も毒性の強い2,3,7,8-TCDD (トシロウベンゾグアイコリン) に換算した数値。

※ 採水方法 : バンドーン式採水器を用い、経堂池中央部において、水深(約2m)の中層1.0mの水を汲み上げた。

※ 分析方法 : 試料をろ過せず、採取時の濁りとともに全量を分析。

* 農業用水基準 : 農林水産省が学識経験者の意見も取り入れて、昭和45年3月に定めた基準で、法的拘束力はないが、水稻の正常な生育のために望ましいかんがい用水の指標として利用されている。

責任追及の状況について

1 行政代執行費用に係る納付命令の状況

対象者 発出日	平成 22 年 10 月 22 日	平成 25 年 9 月 9 日	平成 27 年 1 月 23 日
株式会社アール・ディエンジニアリング（以下「旧RD社」という。）	内容：緊急対策工事費用（放置焼却炉の撤去、廃棄物仮置場所設置、飛散防止措置等に要した費用。県単独費） 命令額：94,117,579 円	内容：主に一次対策工事に係る費用（調査委託費、工事設計委託費、掘削工事費、廃棄物処分費等。起債対象を含む。） 命令額：709,029,725 円	
旧RD社 元代表取締役	内容：同上 命令額：94,117,579 円	内容：同上 命令額：709,029,725 円	内容：主に二次対策工事に係る費用で平成25年度に支出したもの（調査委託費、掘削工事費、廃棄物処分費等。起債対象を含む。） 命令額：331,547,689 円
旧RD社 元埋立担当役員 2名			内容：H25.9.9 付け納付命令と同じ（旧RD社および元代表取締役に対する措置命令の内容②に係る費用に限る。） 命令額：703,005,433 円 内容 上記元代表取締役の納付命令と同じ（元代表取締役に対する措置命令の内容②に係る費用に限る。） 命令額：330,917,689 円

※1 平成 26 年 3 月 12 日付けで旧RD社の破産手続終了に伴い法人格が消滅したことから、旧RD社に対する納付命令は事実上失効。

2 求償した行政代執行費用の累計額は 1,134,694,993 円である。

<参 考>

県が旧R D最終処分場で行っている行政代執行は、旧R D社等に対し、廃棄物の処理及び清掃に関する法律（昭和45年法律第137号）第19条の5第1項の規定による措置命令を発出したものの、旧R D社等が命じられた措置を講じなかったことから同法第19条の8第1項の規定により行っているものである。なお、措置命令の発出状況は次のとおり。

対 象 者	発 出 日	措置命令の内容
・旧R D社 ・元代表取締役	平成20年5月28日	① 廃棄物等の飛散流出防止 ② 場内浸透水の汚染の防止および当該汚染に起因する周辺地下水の汚染のおそれの防止 ③ 硫化水素ガス等による悪臭の発生防止 ④ 焼却炉に付着したばいじん等の飛散防止
・元埋立担当役員2名 ・元埋立現場責任者1名	平成20年7月24日	場内浸透水の汚染の防止および当該汚染に起因する周辺地下水の汚染のおそれの防止

※1 平成26年3月12日付けで旧R D社の破産手続終了に伴い法人格が消滅したことから、旧R D社に対する措置命令は事実上失効。

2 上記の措置命令のうち、元埋立現場責任者に対するものについては、平成20年当時に不適正な埋立処分を指示すべき立場にあったと考えられたことから発出したものであるが、今般、元代表取締役以外の3名に新たに納付命令を発出しようとするに当たり、改めて措置命令に関する資料（措置命令発出後に入手したものを含む。）を精査した結果、元埋立現場責任者は実際には不適正処分に関与した事実が認められなかったことから、平成27年1月23日付けで取り消した。

2 現時点（平成27年2月末）までの回収額

8,329,279円（強制徴収および定期納付ならびに旧R D社の破産手続終了に伴う残余財産の回収）

3 今後の予定

(1) 今年度

新たに納付命令を発出した元埋立担当役員2名について、納期限内に納付がない場合は、強制徴収を行う。

(2) 来年度以後

措置命令対象者に対し、今後二次対策工事の完了までに直接要する行政代執行費用（工事費用、廃棄物運搬処分費用、水質モニタリング調査費用等。総額約70億円）について、毎年度、前年度分の支出額の納付を命ずる。